

令和7年度

運営に関する計画

【最終評価】

大阪市立波除小学校

令和8年2月

大阪市立波除小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標」 ① 小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。 (R6:88.7%) (R7後:81.3%) ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R6:46.1%) ③ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。 (R6:88.7%) (R7後:90%) ④ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 (R6:85.2%) (R7後:88.8%)	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 ・いじめの認知について、文部科学省から示された捉え方を教職員間で共有し、実態の正確な把握に努める。 ・いじめアンケートを毎学期行い、いじめの早期発見を図り、解消に向けて組織的に取り組む。	A
指標① 学校アンケート「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7前:88%) (R7後:91.1%) A…91%以上 B…80%～90% C…80%未満	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 ・自他を尊重し、誰もが安心して過ごすことができる学級経営、学年集団づくりの取り組みを推進する。 ・不登校対策委員会を学期に1回開き、不登校児童の実態について共通理解を図り、対策を組織的に協議して支援体制を強化する。(R7後:不対委3回、研修1回 計4回)	A
指標① 不登校対策委員会や研修会を開く。 A…4回以上 B…3回 C…2回	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 ・看護当番が一週間の児童の様子を把握し職員間で共通理解を図り、児童朝会で児童に伝え、学校のきまりを守ろうとする意識をもたせる。	A
指標① 学校アンケートの「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(R7前:88%) (R7後:89.8%) A…88%以上 B…85%以上 C…80%以下	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・特別の教科「道徳」の指導要領における内容項目(A)主として自分自身に関するものの「個性の伸長」をねらいとする授業や取り組みを定期的に行う。指導にあたっては、児童の長所を積極的に認め、励まし、自尊感情を高めるようにする。 ・各学級・異学年交流の「いいところみつけ」を実施し、自己肯定感の育成と向上につなげるようにする。	A
指標① 学校アンケート「自分にはよいところがありますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R7前:87%) (R7後:86.3%) A…86%以上 B…85%～80% C…80%未満	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・「いじめについて考える日」やいじめアンケートを定期的にとりくむことによって児童一人ひとりが「いじめはいけないものだ」と考え、行動することができている。また、いじめアンケート後の聞き取りをすることでいじめの早期発見、解決に努めることができた。
- ・学年や生活指導部会等で児童の様子を報告することで、職員間で共通理解を図ることができた。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・自他を尊重し、誰もが安心して過ごすことができる学級経営、学年集団作りを行うために、各クラスで話し合っって学級目標を決めたり、各行事で一人一人がそれぞれの役割を認め合えるよう働きかけたり、特別支援学級の児童を大切に作るクラスづくりを目指したりするなど、日常から意識するようになってきた。
- ・不登校対策委員会で児童の様子・今後の対応を共通理解をしている。別室登校の児童への個に応じた対応を行ったり保護者への連絡や月に一度のSC後の懇談などを行ったりすることができた。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・看護当番による児童への指導、教員間での情報共有をすることができ、その情報をもとに学級の指導に活用することができた。
- ・学校のきまりを徹底するため、児童会活動部から「生活マスター週間」を提案し、児童が主体となって学校のきまりを守ろうとする活動に取り組むことができた。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・道徳教材の「個の伸長」をねらいとする授業を実施し、他の教科や日常的にも児童の長所を積極的に認め合うなど、自尊感情を高める活動を取り入れた。
- ・「いいところみつけ」を学級・学年・異学年交流と年8回実施し、互いの頑張りを認めることができた。自分のよいところだけでなく、他者のよいところにも目を向けるようになってきている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・今後もいじめアンケートを効果的に活用し、いじめの早期発見に努め情報共有を行っていく。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・今後も継続的に指導・共通理解を行っていく。
- ・不登校の児童の理由はさまざまに多様化しているため、外部機関との連携や働きかけをさらに進める必要がある。不登校の前兆が見られる児童について共通理解をはかり、臨機応変に対応できるようにする必要がある。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】

- ・児童に学校のきまりを守ろうとする意識をもたせるため、今後も教職員が共通の認識をもち日常的に継続指導できるように努めていく。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・教科「道徳」としての指導のあり方の研修を取り入れたり、「個の伸長」を扱う期間を設けたり、啓発したり、他の教科や日常の実践と関連付けて実践する。
- ・3年間「いいところみつけ」を継続して取り組んできたが、「いいところみつけ」の取り組みだけではこれ以上自尊感情を高めるのが難しい。そのため、代わる自尊感情を高めるための取り組みを検討する必要がある。

大阪市立波除小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 50%以上 にする。 (R6:47%) (R7 後:45%)</p> <p>② 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。 (R6 68.7%) (R7 後:62.5%)</p> <p>「学校独自の目標」</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「社会の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 69%以上 にする。 (R6 68.7%) (R7 後:71.3%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・あらゆる学習活動の中で、考える時間の確保やワークシートの工夫、話し合い活動の設定など自分の考えや思いを表現する力を身につけるための指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 47%以上 にする。 (R7:45%)</p> <p>A…50%以上 B…40%～50% C…40%未満</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・英語短時間学習の時間を通じて、楽しみながら外国語(英語)にふれることができるようにする。</p> <hr/> <p>指標① 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上 にする。 (R7 後:62.5%)</p> <p>A…71%以上 B…65～70% C…65%未満</p>	C
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・教員が師範授業や研修会、各自の文研研究等を通して社会科への教科理解を深める。</p> <p>・授業研究会を通して社会科学習における主体的・対話的かつ深い学びを構築する指導力を高める。</p> <hr/> <p>指標① 学校アンケートにおける「生活科・社会科の学習は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を 69%以上 にする。 (R7 後:71.3%)</p> <p>A…69%以上 B…68～64% C…64%未満</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・あらゆる学習活動の中で考える場面を設定し、児童の主体的な学びを生むような話題の設定をした。また、個人で考える→ペアで確かめる→全体で共有、の流れにより、自信をもって表現できる児童が増えるとともに、自分の考えを広めたり深めたりすることができてきた。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・短時間学習や外国語の時間に英語に多く触れ合い、楽しく活動できている。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・計画的に研究授業をすすめる、社会科の指導についての基礎基本を学ぶことができている。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・意見を言わない児童への個に応じた指導の工夫が必要である。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・今後も短時間学習の活動を継続する。
・委員会から出ている短時間学習の指導案なども参考にする。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・研究主題のアップデートを行い、よりよい社会科の授業にむけた授業改善に取り組んでいく。

大阪市立波除小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く） (R6:32.8%) (R7後:83.1%)</p> <p>② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1ヵ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下)を満たす教職員の割合を65%以上にする。 (R6:65.8%) (R7後:80.56%)</p> <p>「学校独自の目標」</p> <p>③ 「はぐくみネット」や学校協議会の仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を推進する。</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の天気等の入力内容をもとに児童の実態把握・指導に生かす デジタルドリル(navima)を活用した自学自習を推進する。 デジタルコンテンツの活用による教材のペーパーレス化を図る。 デジタル教科書・教材を活用した授業の実施をする。 	A
<p>指標① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 (R7後:83.1%) （ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く） A…55%以上 B…50～54% C…49%以下</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を学校全体として推進し、NO会議デー・NO残業デーを設定する。 会議の精選を行う。 ICT活用等による業務の効率化を図る。 スクールサポートスタッフに印刷業務などを振り分ける。 	A
<p>指標① 1ヵ月の勤務時間超過45時間以下、年間360時間以下の教職員の割合を65%以上にする。 (R7後:80.56%) A…67%以上 B…65～66% C…64%以下</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で、年に1回以上ゲストティーチャーを招聘しての学習活動に取り組む。 学校行事で学期に1回以上地域の方と協働した活動を設定する。 	A
<p>指標① 学校教育アンケート「波除小学校では、地域の方と学習する機会を設定している。」に肯定的に回答する割合を50%以上にする。 (R7後:81.4%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

- ・ICT 機器やデジタルコンテンツの特性を活かすことで、児童の学習に対する興味・関心が高まった。
- ・教科書の内容を視覚的・操作的に学べる環境が整ったことで、従来の学習方法よりも児童の反応が良く、授業内容への理解がより深まっている様子が見られた。
- ・各教科の授業においてデジタル教科書や教材を活用した指導が各学年で定着してきている。
- ・授業中の空き時間や普段の宿題、長期休みの宿題としてもデジタルドリルを積極的に導入したことで、学校での一斉学習だけでなく、家庭学習や個人の学習時間においてもデジタルツールを活用する習慣が広がった。
- ・各学年の発達段階や実態に即したデジタル教材を選定・活用することで、効果的な指導を行うことができた。
- ・一律の課題だけでなく、児童一人ひとりの課題の進捗状況に合わせてデジタルドリルに取り組みさせるなど、個々の習熟度やペースに応じた、柔軟な学びの実践が進んだ。
- ・授業や日常の活動において ICT 機器を積極的に活用することで、これまで紙で行っていたやり取りのデジタル化が進んだ。
- ・児童同士や教員間でのペーパーレス化が促進されており、資源の削減のみならず、プリント配布・回収などの業務の効率化や学習環境のスマート化にもつながっている。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・スクールサポートスタッフ等と業務分担を行い、作業の効率化を図ることができた。
- ・会議の精選により、働きやすい環境になりつつある。

取組内容③【基本的な方向8 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・学校全体で地域と連携した取り組みを実施し、ゲストティーチャーの専門的な知識や技術を知るよい機会になった。
 - ・国語科や社会科等、教科に関連した体験を実施することで、学習を発展させたり深めたりすることができた。
- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1年生・・・昔遊び | 2年生・・・町探検 |
| 3年生・・・アイマスク体験・アメフト体験 | 4年生・・・水防団・着物体験 |
| 5年生・・・沖縄県事務所・健康体操・茶道体験・区長 | |
| 6年生・・・アクセスディンギー・国際ボランティア講話 | |
- 全学年・・・空飛ぶトラック企業講話、万博遠足、なみっこ読み聞かせ、防災リーダーによる防災体験 等

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

1. 業務の効率化と教員のスキルアップ
 - ・DX 推進に伴い会議の議論が多岐にわたるためか、一つひとつの会議時間が長くなる傾向にあるため事前に進行の打ち合わせを行ったり、扱う内容を精選したりするなど、会議の効率化を図る方法を検討していく。
 - ・ICT 機器をより効果的な指導につなげるため、教員自身のデジタルリテラシー向上に向けた研修や、組織的な取り組みの検討も行う。
2. 児童の基本習慣とモラル指導
 - ・授業での活用を円滑に進めるための前提として、家庭での端末充電を確実に習慣づけるよう、改めて徹底する。
 - ・端末利用が日常化する中でトラブルを未然に防ぐため、情報モラルに関する指導を単発ではなく定期的に学級で行い、児童の規範意識を継続的に育てていく。

3. ツールの運用基準の明確化の検討

・日々の健康観察等で活用している「心の天気」等の機能について、運用をより実効性のあるものにするための工夫を検討する。（具体例として、「どのような状態が『曇り』や『雨』に該当するのか」といった判断基準を明確に設けるなどの検討をしていく。）そうすることで、児童が迷わず回答でき、教員側も児童の変化を適切に捉えられるような共通認識を作ることができると考えられる。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・終了時刻を決めたり、会議の統合をしたりするなど会議の精選や効率化を続けて検討していく。
- ・NO 会議デー・NO 残業デーでの退勤時間の徹底に注力していく。

取組内容③【基本的な方向8 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・実施の内容や時期などを検討しながら、今後も継続していく。